

## 「協同的学び合い」をつくる言語活動

新しい小学校学習指導要領が全面実施され、基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などをはぐくむための「言語活動の充実」が求められています。

本校では、このたび、『「協同的な学び合い」をつくる言語活動－教科の特質をふまえた授業づくり－』と題する本書を出版し、各教科等において「言語活動の充実」を図る方途を提案致します。

昨今の小学校教育現場では、「言語活動の充実」自体が目的化したり、単に活動することだけに終始したりして、各教科等の特質に応じていない授業を目にすることが多くなっているように思います。

こうした現状を打破するための指針として、文部科学省は「言語活動の充実に関する指導事例集」を作成し、その中で、「各教科等においては、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割をふまえて、言語活動の充実させる必要がある」と述べ、言語活動を、各教科等の目標を実現するための手立てとして捉えるべきことを示唆しています。本校でも、言語活動を方法として位置付け、これが、各教科等における豊かな学び合いをさらに高めるものでなければならないと考えて実践研究に取り組み、本書の出版に至った次第であります。

平成 23 年 6 月、文部科学省初等中等教育局教科調査官の水戸部修治先生を本校の研究発表会にお招きして「子どもたちが主体的に思考し、判断し、表現する授業の創造」と題する全体講演をいただきました。これをご縁として、水戸部先生には引き続きご指導をいただき、このたび、本書の第 I 章をご執筆くださいました。本校にとりましてまことに光栄なことと存じます。私どもは、各教科等の特質に応じた「言語活動の充実」について、公立小学校の先生方に向けてできるだけ平易に語りかけ、これを解き明かしていかなければならないという課題を、水戸部先生と共有しているということを実感しております。そして、その課題の解決に向けた大いなる前進として本書が貢献できますことを、本校の研究同人の全員が期待しております。この場をお借りして水戸部先生には心より御礼申し上げます。

なお、本書は本校職員のみの実践研究によって行われたものではありません。本書が刊行されるまでには、多くの方々の指導や激励があったことを申し添えておかなければなりません。各教科等の特質に応じた「言語活動の充実」の在り方について、福岡教育大学の先生方には実証授業の段階から懇切丁寧なご指導をいただくとともに、本書の中でも共同執筆いただきました。また、原榮一先生、桑野善吾先生をはじめとする本校の諸先輩方からのご支援に対しましても、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さらに、明治図書出版の樋口雅子様のお力添えをいただくことで、今回もまた著書をまとめることができました。深甚より感謝申し上げます。

最後になりましたが、多くの読者諸賢の忌憚のないご意見をお願い致して、ここに本書を上梓いたします。

平成 24 年 3 月

福岡教育大学附属久留米小学校

校長 飯田 慎司